

5年「自然災害を防ぐ ～南海トラフ巨大地震に備えて～」の実践について

【本時の目標】 (9/10)

名古屋市にかかわる国土交通省の取り組みをとらえ、南海トラフ巨大地震の被害を減らすための名古屋市の取り組みへの理解を深めることができる。

【本時の教材】

名古屋市を含む広範囲において起こることが予想される南海トラフ巨大地震への取り組みを教材とする。これは、日本の国土について学習を進める5年生にとって自然災害と産業、国民生活との関わり、国や県、市における取り組みなどから自然災害防止の重要性に気付くことができる。

そして、今後の自然災害防止の在り方や自分との関わりを考えることを通して、国民一人一人が協力することや防災意識を高めることの大切さをとらえられる教材である。

【本時の主な学習活動】

- 国土交通省の方をゲストティーチャーとして招き、取り組みの現状や問題点について聞くとともに、新たな取り組みについて知る。
- 「安心レベル」を用いて再度、「学習問題Ⅱ 南海トラフ巨大地震の被害を減らすための名古屋市の取り組みは十分だろうか」について話し合う。その際に、考えを見直した根拠を示しながら話し合う。

【本時の主な手立て】

○ 子ども主体の学び合いを引き起こす学習活動の工夫

〈自分の考えを見直し、明確にするための「安心レベルシート」の活用〉

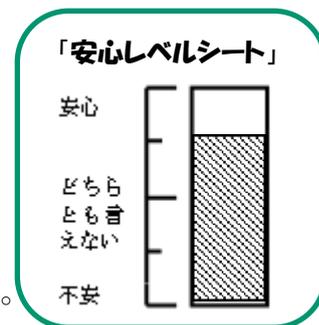
「安心レベルシート」とは、「社会に関わる段階」で、学習問題「南海トラフ巨大地震の被害を減らすための名古屋市の取り組みは十分かどうか」について、右図のように、4段階の「安心レベル」で示す尺度表のことである。

前時までで、国土交通省の方の話や資料から南海トラフ巨大地震の想定を知り、調べた取り組みでは対応しきれない点があることをとらえる。

次に、「社会が分かる段階」での追究の視点に合わせて、南海トラフ巨大地震の被害軽減に向けた名古屋市の取り組みを調べる。そして、「南海トラフ巨大地震の被害を減らすための名古屋市の取り組みは十分かどうか」を「安心レベルシート①」に表す。

本時では、国土交通省の方をゲストティーチャーに招き、南海トラフ巨大地震による被害の軽減に向けた取り組みを知り、「安心レベルシート②」を作成する。「安心レベルシート②」を基に国土交通省の方を交えて話し合い、考えを見直し、「安心レベルシート③」を作成する。

最後に、作成した「安心レベルシート」を振り返り、自らの考えの変容を知るとともに、「安心レベル」をさらに上げるための自然災害防止の在り方について考える。



このように学習過程に「安心レベルシート」を活用した話し合い活動を位置付けることで、自分の考えと他の子どもの考えを比較し、考えを見直すことを繰り返しながら、これからの自然災害防止に向けた国・県、名古屋市や人々の在り方や自分の関わり方を考えることができるようにする。

【主な学習活動と予想される児童の発言】

- 1 本時のめあてを確認する。

〈本時のめあて〉

名古屋市にかかわる国土交通省の取り組みを知り、学習問題Ⅱについて話し合おう。

- 2 国土交通省の取り組みを知る。

- (1) 国土交通省の方から南海トラフ巨大地震に備えた取り組みについての話を聞く。

〈名古屋市にかかわる国土交通省の取り組みの内容〉

【「つくる」(施設の強化・整備)に関する取り組み】

- ・ 高潮防波堤の補強など、南海トラフ巨大地震に向けた整備・補強の取り組み。
- ・ 緊急避難のための道路整備と耐震補強をしていること。

【「備える」(訓練や備えの呼びかけ)に関する取り組み】 [今回、話していただく内容の重点]

- ・ 被害の最小化を図る様々な方策を検討し、早期復旧支援ルート確保手順「くしの歯作戦」を策定して備えていること。

【「伝える」(情報の伝達)に関する取り組み】

- ・ 道路、川、海岸のライブカメラ等による情報提供をしていること。 など

- (2) 話に対する質問や感想を発表する。

- 3 「安心レベルシート②」を作成し、学習問題Ⅱ「南海トラフ巨大地震の被害を減らすための名古屋市の取り組みは十分だろうか」について話し合う。

- (1) ワークシートに「安心レベルシート②」を作成する。

- (2) 学習問題Ⅱについて、「安心レベルシート②」を基に話し合う。

〈予想される児童の発言〉

〈「つくる」(施設の整備・強化)の視点からの発言〉

○ ぼくは、「安心レベル」は、2だったのですが、3の「どちらかと言うと安心」変えました。国土交通省取り組みを知って、道路の整備などを進めていけば、道が多く人が集まる名古屋市の被害は軽くていいと思ったからです。

○ わたしは、逆に「安心レベル」を3から2に下げました。南海トラフ巨大地震の被害を考えると、人が多く集まる名古屋市では被害が広がってしまうと思うからです。道路を整備しても建物が倒れてしまったら、被害を受けてしまうので、人が多く集まる場所を強くする取り組みを進めてほしいと思います。どうですか。

〈「備える」(訓練や備えの呼びかけ)の視点からの発言〉

○ わたしは、「安心レベル」を2から3に上げました。「くしの歯作戦」のことを知って、備えや訓練をしっかりしておけば「安心レベル」は高まると思ったからです。「くしの歯作戦」によって、名古屋市が被害を受けていない場合は、まわりの市や町を支援できることを知りました。「くしの歯ルート」を使った訓練にわたしたちも参加すれば、巨大地震からの被害を軽くていいと思います。どうですか。

○ 付け足しです。「くしの歯ルート」の他に、学校のまわりなど、よく使う場所やその周辺の様子も知っておく必要があると思います。そして、名古屋市の中学校のよう避難所の運営を体験したり、避難訓練を繰り返し取り組んだりすることも大切だと思います。どうですか。

〈「伝える」(情報の伝達)の視点からの発言〉

○ わたしは、「安心レベル」を2の「どちらとも言えない」のままにしました。ライブカメラで地震の様子を伝えていくことは、効果があると思ったのですが、市民が様子を知って避難したり、災害が広がらないように協力したりできるか不安だからです。どうですか。

○ 「安心レベル」を1から2の「どちらとも言えない」にしました。地震が起こった様子を見ることができると、とても役立つと思ったからです。起こってからでは遅いので、様子を市民に正確に伝えることができる仕組みができるとうれしいと思います。どうですか。

- 4 話し合いを振り返り、自分の考えをまとめる。

- (1) 「安心レベルシート③」を作成する。

- (2) 「安心レベルシート③」を発表する。

- 5 国土交通省の方からコメントをいただき、学習の振り返りをする。

6年「私たちの願いを実現する政治 ～白鳥公園一帯の整備事業を取り上げて～」の実践について

【本時の目標】 (3/13)

「プロジェクトシート」の作成を通して、追究の視点「かかわる人」「流れ・歴史」「目的」を基に、子ども一人一人が追究のめあてや調べる方法を明らかにすることができるようにする。

【本時の教材】

江戸時代より白鳥貯木場であった白鳥公園一帯の整備事業を教材とする。これは、私たちの願いを実現するために、様々な立場の人々が協働して社会をよりよくしようとしていることや生活の安定と向上を図ろうとする政治の働きを理解できる。そして、地域の人々の願いが政治の働きにより実現されていくことが分かり、政治と自分との関わり方について考えられる教材である。

【本時の主な学習活動】

- 学習問題Ⅰについての予想を、タブレットパソコンの付箋機能を用いて書き出し、分類・整理し、追究の視点をつくる。
- 追究の視点を基に、一人一人が、これから調べていく追究のめあてを決める。
- 一人一人が追究のめあてをもち、「プロジェクトシート」を作成することで、学習の見通しを立てる。

【本時の主な手立て】

○ 子ども主体の学び合いを引き起こす学習活動の工夫

〈学習への見通しをもつプロジェクトシート作成の活動〉

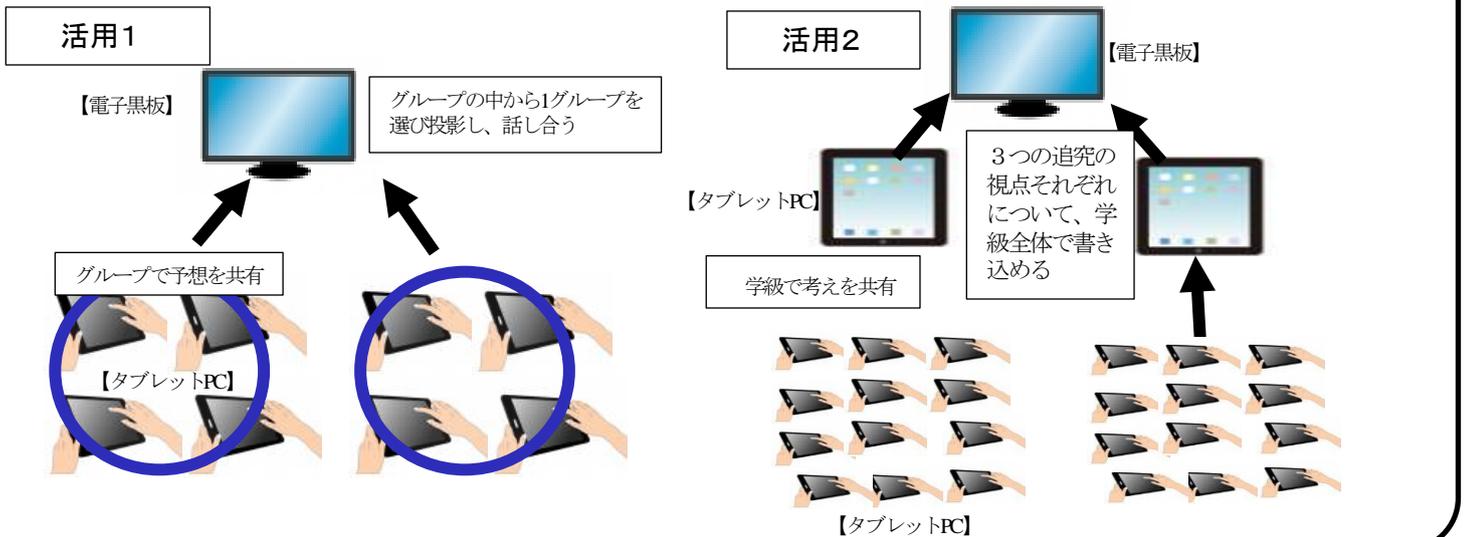
「社会を見つめる段階」において、学習問題Ⅰに対する予想を話し合う際、タブレットパソコンを用いた「プロジェクトシート」の作成を通して、子ども一人一人が調べる事を明らかにしていく話し合い活動を行う。

プロジェクトシートとは、学習問題を追究するにあたり、子ども一人一人が調べることを書き込んだ学級の役割分担表である。プロジェクトシートとして掲げることで、自分の調べが、学習問題を解決するための一部分を担っていることが分かり、追究の意欲と目的意識の醸成するものとなる。そして、学びをクラスに還元することで互いに学び合えることを意識させ、学習への見通しをもたせることにつながる。

〈一人一人の考えを全体で分類・整理して、学習への見通しをもつためのタブレットの活用〉

本時では、学習問題に対する予想を分類・整理し、追究の視点をつくる場面と「プロジェクトシート」を基に、追究のめあてを考える場面にタブレットを活用する。タブレットPCのグループ共有機能を用いて、各班で出された予想を「かかわる人」「流れ・歴史」「目的」に分類・整理し、全体の場で電子黒板上に投影しながら、調べる方法について話し合う。

【タブレットパソコン活用のイメージ】 メリット：一斉に作業ができ、その内容をリアルタイムに知ることができる。そのため、考えの共有がしやすい。デメリット：考えを紙上に残しにくい。



【主な学習活動と予想される児童の発言】

- 1 前時までの学習を振り、学習問題Ⅰ「白鳥公園は、なぜ、どのようにして、できあがったのだろう」と学習のめあてを確認する。のめあてを確認する。

【学習のめあて】 学習問題を解決する方法をみんなで考えよう。

- 2 学習問題Ⅰに対する予想を話し合い、「追究の視点」をつくる。

- (1) 学習問題Ⅰに対する予想をする。

〈予想される児童の発言〉

C:子どもの遊び場がほしいから、住民がお金を出して作った。
C:木が売れなくなったから、工事をして作った。
C:貯木場の臭いがくさかったから、みんなが相談した。
C:デザイン博のための場所がなかったから、場所を作るために埋め立てた。

- (2) 予想を話し合い、追究の視点をつくる。

○「なぜ」「どのように」という点で予想の内容を話し合う中で、公園整備には「目的」や「流れ・歴史」があることに気付かせ、追究の視点をつくる。

- 3 追究の視点を基に、自分が調べていく「追究のめあて」を考える。

- (1) 3つの追究の視点について考える。

- (2) タブレットパソコンの記述を参考に、自分の追究のめあてを決め、カードに記述する。

- 4 追究のめあてを調べる方法を考える。

○「追究のめあてカード」に調べる方法を記述し、プロジェクトシートに貼る。

〈プロジェクトシート〉		
学 習 問 題 Ⅰ		
〈かかわる人〉 予想 予想	〈目的〉 予想 予想	〈流れ・歴史〉 予想 予想
市長が、子どもたちの遊び場を増やすために計画を立てた。 A児	中部森林管理局の人が、木材が売れなくなったため、お金を集めて公園にした。 B児	白鳥学区の人が、貯木場だった歴史を残したいから、話し合いに参加した。 C児

追究の視点
予想
(事後に、学習活動3(1)のタブレット画面を印刷して貼る)

個別の追究の
めあて
名前

- 5 本時の学習を振り返る。

〈予想される児童の発言〉

C:名古屋市の公園だから、市役所の人に聞くと分かると思う。
C:図書館で、名古屋市の歴史についての本を調べてみたい。
C:「白鳥公園 歴史」のキーワードで検索すると分かると思う。